



## DxO Optics Pro v5.2 リリースノート

**Windows:** (build 7002)

### 新規サポートカメラ機種

---

- Sony A350、Sony A700、Pentax K20D。

### v5.1と比較しての、新機能

---

- DxO Optics Pro RAW 現像エンジンがアップグレード。特殊なアルゴリズムによりセンサー上のデッドピクセルの補正が可能になり、高感度 ISO での撮影でノイズ除去機能が向上し、色を保持したままルミナンスノイズを減少することに成功しました。
- 今回のリリースより Adobe® Photoshop®用プラグインとしても使用可能。
- DxO Optics Pro は Windows XP SP2、XP SP3、Vista をサポートしておりますが、公式的には Windows XP 64 ビット and Vista 64 ビットはサポートしていません。しかし現在のテスト段階においては互換性が確認されています。

### v5.1と比較しての主な改善点

---

メモリの使用量が（仮想メモリと物理メモリ）が抑えられ、起動時のクラッシュの一部が解決しました。

- メニュー：編集メニューに新コマンド追加
  - [全てを選択] コマンドを使うと、ディレクトリ内のすべてをいち早く選択可能。
  - [補正設定のコピー／貼り付け] コマンドにより、一つの画像の補正網目を一枚か複数の画像にコピーすることが可能。
- プロジェクトウィンドウ：
  - [プリファレンス] 内で、画像に不足している EXIF 値の注意情報表示をしないように設定可能。
  - 保存をしない限りプロジェクト名の右に星マークが表示。
- [選択] タブ
  - サムネイル画像が内容画面で正常な向きで表示。
- [補正] タブ
  - 画像の再表示の最適化。ディスプレイのエラーの一部が解決。
  - 新ショートカット：[補正後画像] 上でクリックし続けると [補正前画像] が表示。
- [処理] タブ
  - バッチ処理の際、星マークの数で優先順序指定可能。

### 他のソフトウェアとの互換性

---

- DxO Optics Pro の Adobe Photoshop 用プラグインは CS2 と CS3 をサポート。Photoshop のメモリ管理の制限により、多くの画像を一度に処理することはお勧めできません。また、Photoshop Elements 6 は基本的にはサポートしていません（時にクラッシュが発生するため）。
- DxO Optics Pro は Lightroom® v1.4 の外部エディタとして使用可能ですが、v2 はサポートしていません。DxO Optics Pro から直接 Lightroom のデータベースへのアクセスは Lightroom v 1.4 ではサポートされていますが、v2 では使えません。

## 既知の問題点

---

- インターネットに接続されていないコンピュータ上にインストールし、マニュアルライセンス認証をした場合、ライセンスの一時保留手続きが利用不可。
- DxO のプリセットとサイドカーが、Windows 版と Mac 版の間で共有不可。
- いくつかの違った出力形式が使われた場合、〔確認〕タブ上でサムネイル画像の表示エラーが時に起こることを確認。
- DxO モジュール曖昧性指定の画面で、DxO モジュールを選択する際にクラッシュ。
- 複数のキーストーン補正を続けて使用する際に、画像が正しく表示されない。
- 〔補正〕タブの〔即処理実行〕ボタンを使って実行した変更が〔処理〕タブで保存されていない。）
- クロップツールでクロップする部分を下から上に描くと、制限が生じる。**当面の解決方法**：クロップツールを上から下に向かって使う。
- 既に一度処理され、プリセットを使って補正内容が変更された場合、自動的にバッチに組み込まれない。**当面の解決方法**：バッチフィルターの星マーク上で二度クリックすると処理待ちリストがリフレッシュされる。

## Macintosh : (build 7080)

### 新規サポートカメラ機種

---

- Sony A350、Sony A700、Pentax K20D。

### v5.1と比較しての新機能

---

- DxO Optics Pro RAW 現像エンジンがアップグレード。特殊なアルゴリズムによりセンサー上のデッドピクセルの補正が可能になり、高感度 ISO での撮影でノイズ除去機能が向上し、色を保持したままルミナンスノイズを減少することに成功。
- 今回のリリースより Adobe Photoshop 用プラグインとしても使用可能。
- サイドカーファイルのインポート/エクスポート機能を使って個々の補正データが、別のマッキントッシュ間で交換可能になり、より柔軟性の高いアーカイブも可能。
- 〔補正〕タブのプレビュー画像上に罫線が表示可能。

### v5.1と比較しての主な改善点

---

- プロジェクトウインドウ：
  - 〔保存する〕ボタンを使って、現在作業中のプロジェクトを逐次保存することが可能。
- 〔選択〕タブ：
  - 〔ファイルシステム〕と〔プロジェクト履歴〕を使用している時に時折起きていたクラッシュの解決。
- 〔補正〕タブ：
  - 画像の再表示の最適化。ディスプレイのエラーの一部が解決（特にハイライトとシャドウ部分において）。
  - 補正項目の数値パラメータの変更が矢印を使って可能。
- 〔処理〕タブ：
  - 出力ディレクトリ内に、サブ出力ディレクトリの設定が可能。

### 他社ソフトウェアとの互換性

---

- DxO Optics Pro の Adobe Photoshop 用プラグインは CS2 と CS3 をサポート。Photoshop のメモリ管理の制限により、多くの画像を一度に処理することはお勧めできません。また、Photoshop Elements 6 はまだテストが終了していません。
- DxO Optics Pro は Lightroom v1.4 と v2 の外部エディタとして使用可能。DxO Optics Pro から直接 Lightroom のデータベースへのアクセスは Lightroom v 1.4 ではサポートされていますが、v2 では使えません。

## 既知の問題点

---

- インターネットに接続されていないコンピュータ上にインストールし、マニュアルライセンス認証をした場合、ライセンスの一時保留手続きが利用不可。
- Dx0 のプリセットとサイドカーが Windows 版と Mac 版の間で共有不可。
- Dx0 Optics Pro v4 Macintosh 版で作成したプリセットのインポートも使用不可。
- [画像を ICC プロファイルを作成するためにエクスポートする] コマンドが使用不可。
- ズーム／移動パレット中で、反応の問題が確認。**当面の解決法**：画像上でダブルクリックするとナビゲーションが可能。
- [選択] タブにおいて、ディスプレイモード(リスト／コラム／アイコン)を変更する際に、一旦選択した画像が非選択なる場合確認。
- プリセットの編集の際、ホワイトバランスの変更がユーザが [適用] をクリックするまで表示画像に非反映。
- ダスト除去ツールがアクティブになっている時、[補正] タブに画像を読み込むとソフトウェアがフリーズ。